

**副島隆彦先生の最新言論からカルロスゴーン逮捕や
金融やスパイ組織論について学ぶ！
⇒編集後記で（11ページ）**

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

【ネットビジネス系の新案件】

借金300万円から復活した

**【元お笑い芸人大田さんが
298000円のソフト⇒無料でプレゼント！】**

⇒ <http://www.fxgod.net/a/groups/1427489/14/>

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

どうもゆうです！

読者さん、こんにちは！

さて、私は政治経済について昔から副島隆彦先生に
色々学ばせていただいているのですが

この前、副島隆彦先生が新しい書き込みを重たい掲示板で
されていました！

カルロスゴーン逮捕のことであつたりとか
今の金融政策の矛盾であつたり、

そして「経済は予測できない」など大変重要なことが
書かれていました。

見てみましょう！

編集後記で！



【元お笑い芸人大田さんが
298000円のソフト⇒無料でプレゼント！】



さて、昨日は台湾のUBERの事情について

実際に自分で使ってみた感じで書きました。

ほんと最近の新興アジア国はどんどん豊かになっておりますね。

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

PDFレポート

【台湾のuber ウーバータクシーは車が豪華で超安い？】

⇒ http://fxgod.net/pdf/taiwan_uber.pdf

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

さて、それで今日は新しいインターネットビジネス系の
案件です。

こちらはかなり有名な大御所アフィリエイトの方なんですけど

元お笑い芸人の大田さんという方の担当している

案件で、

結構しっかりと月収数十万円～100万円を目指していこう

という案件であつたりします。

この大田さんは色々とツールをご自身で作られて

それでネットで稼いだりしているのですが

今回はこの大田さんの29万8000円のソフトを

無料で使わせてもらえるそうです

⇒ <http://www.fxgod.net/a/groups/1427489/14/>

今日はこちらの案件を担当している大田さんより

読者さんにメッセージです！

=====

完全自動で放置しているだけで

読者様のパソコンが現金 30 万円を

稼ぎ出します！



<http://www.fxgod.net/a/groups/1427489/14/>

仕事で疲れ果てて帰宅する毎日が

夢のようなひと時を生涯過ごすことが出来るので

精神的にも金銭的にも解放されますよね。

社畜のように働いていたように

そんな辛い経験をすることなく

パソコン 1 台さえあれば

誰でも 30 万円を稼ぐ事が出来ます！

ポチッとボタンを押すだけで OK なので

誰でも出来る良心的なシステムとなっています。

今すぐインストールして

人生を劇変させましょう！



<http://www.fxgod.net/a/groups/1427489/14/>

たった4つのステップで毎月30万円を稼ぎ

不労所得の経験を死ぬまで続けることが出来る

圧倒的なシステムが遂に公開されます。



<http://www.fxgod.net/a/groups/1427489/14/>

1.パソコンにインストール

2.現金が完全自動で収集

3.完全放置で待つだけ

4.初月で 30 万円を稼ぐ

この 4 つの基本的な構図が

将来読者様の人生を好転させて

ありとあらゆる幸せを掴む事ができますよ。

システムを受け取る為に必要なメールアドレスがあれば

今から手にすることが出来て実際に運用していく事が可能です。

確実に初月から 30 万円を手にしたのであれば

今すぐに登録してパソコンにインストールして

莫大な資産を構築していきましょう。



<http://www.fxgod.net/a/groups/1427489/14/>

=====

以上です！

ちなみにこの案件を担当しているのが

元お笑い芸人の大田さんという方で

私も友人から話は聞いた事あるのですが

インターネットビジネスの指導者として長く活躍されてる

方ですよ。

ちなみに元々お笑い芸人だったそうで、

私はあまりお笑い詳しくないですが

東京03というお笑いの方が有名だそうです

その東京03にいらっしゃる方とコンビを以前組んでいた

という話を聞きました。

その後はCMのナレーションなんかをされていて

マク○ナルドのCMナレーションなんかもされていたようで

たぶんそのCM聞いたら

「あ、この声の人か」と分かるかと思います。

<https://youtu.be/3tB9s71qK00>

この声の人がお笑い芸人大田さんですね。

それで彼はお笑い芸人でコンビを組んでいたのですが

それを解散しまして

その時点で借金が300万円くらいあったそうです。

そしてそれを返済するためにネットビジネスを開始した

というのが大田さんの経歴ということですが

そこでその後もう15年以上に渡って年間で

1000万円以上を継続されているということですね。

⇒ <http://www.fxgod.net/a/groups/1427489/14/>

それでこの15年にわたって1000万円以上を継続している

というところのすごさはありまして

やはり一発だけ大きく稼いで消えていく人が多い中

それこそお笑い芸人でも一発屋なんて言葉がありまして

一発当てて消える人は多いわけですが

この大田さんの場合はインターネットビジネスの土壌で

15年間に渡って1000万円以上を継続して稼いでいるわけですね。

なので一発たまたま時流で稼いだという人ではなくて

やはり実力がしっかりある方であると思います。

ちなみによく言われるのが一発1億円稼ぐよりも

10年間1000万円を稼ぎ続けるほうが難しいと言われますが

実際に税金なんかを考えると後者のほうがなんだかんだお金持っていたり

するわけですね。

そういう意味で稼ぎ「続ける」実力をつけるのは大事です。

それで今回は大田さんがそういう本気の稼ぎ方を

人々に教えたいということで

ホンモノを提示したいということでした。

それで今回は29万8000円のツールを無料で

渡すのでまずは俺の話聞いてくれ！

ということのようです。

FXとか株で稼いでる人も多くいらっしゃいますが

やはり ネットを使ったビジネスと投資を組み合わせるとというのが

今の時代鉄板でもありますので

読者さんがネットビジネスでも同時に収益得ることに

興味ありましたら

ぜひご覧くださいね～

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

【ネットビジネス系の新案件】

元お笑い芸人アフィリエイトが
298000円のソフト⇒無料でプレゼント！

⇒ <http://www.fxgod.net/a/groups/1427489/14/>

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

＝＝＝＝＝＝＝＝＝編集後記＝＝＝＝＝＝＝＝＝

さてさて、この前ですが何かと話題の副島隆彦先生が
重たい掲示板に新しい投稿をされていました。

こちらでカルロスゴーン逮捕のことであつたり、
また金融において「予測できない」という重要な内容が

書かれていました！

私なんかも以前に副島先生にこの辺を学んだのですが
今回かなり詳しく書いているので

見てみましょう！

特に第2次世界大戦のくだりであつたりとか
スパイ合戦のことであつたりとか、

もうこれが実際の歴史なんだろうということが
色々書かれていて

大変重要な記事だと思いました。

それでは副島先生の新しい書き込みから
学びましょう！

副島隆彦学問道場、重たい掲示板より引用

↓↓

【大事なことを書きます。 12月2日の定例会に集まってください。】

投稿者：副島隆彦

投稿日：2018-11-24 22:18:50

副島隆彦です。今日は、2018年11月24日です。

まず、カルロス・ゴーン逮捕についてだが、
どうも日本政府は、フランス政府（エマニュエル・マクロン政権）との連携
で、
やったのではないようだ。

フランス政府（マクロン大統領）が、
日産と三菱自動車を ルノー（仏の国営企業）の傘下に入れて、

フランスのものにしてしまおう、という策に出そうだったので、
先制攻撃で、日本政府が、日産と、
三菱自動車を取り戻した、ということのようだ。

アメリカ（トランプ政権）に対しては、怖（こわ）くて、
何も出来ないが、フランスぐらいには、これぐらいの荒療治を、
日本もやるものだな、と、

私は、冷ややかに見ている。

だが、あと一步、その奥を考えると、
国家（政府）の連携（れんけい）による、

民間資本の大企業の創業者一族が、外国に逃がして管理してる、
family office ファミリー・オフィスでの、
1000億円、2千億円（10億ドル、20億ドル）クラスの資金を、

政府の統制下に置こうという 各国の官僚たちの秘密会議での、
共同の動きもあるだろう。

**「世界官僚同盟」（world Bureaucratic Union
ワールド・ビューロクラティック・ユニオン）という。**

これは、「国家資本主義（ state capitalism ステイト・キャピタリズム
ム）」だ。

国家（政府）による、民間経済、産業資本への 統制（とうせい）の動きだ。

統制経済（とうせいけいざい。 コントロールド・エコノミー
controlled economy)
だ 。

さて、来週の頭に迫りました、12月2日（日）の、
私たち学問道場の定例会に来て下さい。
まだ席はあります。 もうすぐ一杯になるでしょう。

第40回 副島隆彦を囲む会主催定例会

菅野完（すがのたもつ）： 「なぜ安倍政権は倒れないのか(仮)」

副島隆彦： 「世界『帝国』衰亡史 ～ 世界の歴史は覇権国・属国理論でや
はり見抜ける」

開催日 2018年12月02日（日曜日）

開場 12:15 開演 13:00 終了 17:00

参加費 会員4000円 / 非会員 5000円

会場 「連合会館 2F・大会議室」

アクセス 地下鉄最寄り駅

東京メトロ千代田線 「新御茶ノ水駅」 B3出口（徒歩0分）

・上記定例会へのお申込みはコチラから！ ↓

<http://www.snsi.jp/bbs/page/1/>

副島隆彦です。

私は、ずっと 「歴史再発掘（れきしさいはくつ）」（ビジネス社刊）
という本を書き上げることに、掛り切りになっていた。

はっと気づいたら、1か月が経（た）っていた。なんとか、年内に出版したい。

この本 の第1章は、ハロルド・“キム”・フィルビー

Kim Philby

という、イギリスのエリート階級の、

そして、MI6(エム・アイ・シックス)の国家情報部員（インテリジェンス・
オフィサー）、簡単に言えば、国家スパイになった、実在の男の話だ。

キム・フィルビーを、知らずして現代世界の、
この100年間の世界政治の動きの真実を、知ることは出来ない。

キム・フィルビー（1912－1988）を論じることは、
私、副島隆彦にとって、どうしても、避けては通れない、
私の人生の重要問題だ。

キム・フィルビーは、22歳の、
ケンブリッジ大学の学生の時（1934年6月）から、
ソビエトの NKVD（エヌ・カー・ヴェー・デー、KGB の前身）のスパイ、

agent エイジエント に なった男だ。
その生涯の複雑さは、もの凄いものだ。

私は、この紛（まぎ）れもなく、史上最大のスパイで、
英米と、ソビエト・ロシアの二重スパイで有り続けた男の、

真実の話を、ベン・マッキンタイアー
（イギリスの The Times 紙の 長年の編集幹部）著 の
“ A Spy Among Friends , 2014 ” 日本語訳は、「キム・フィルビー
」
（原書は、2014年刊。中央公論社から日本語訳 2015年刊） を、
徹底的に、読み続けて、そして考え続けた。

どうも中央公論社 というのは、世界の上、
あるいは奥（ アヴァーブ・ザ・ラー abover the law
雲の上）の組織に、日本から参加している出版社であるようだ。

この3年間、私は、この本の内容を、ずっと考えている。
私にとっては、自分の脳が、すり切れる、と感じるほどの、
恐ろしい本である。

この本を読むことで、現代史（20世紀史）の100年間の、
世界政治のすべての重要なことが、分かった。

イアン・フレミング原作の「007」の第2作目の
「ロシアから愛を込めて」（1963）も、
ジョージ・オーウェルの「カタロニア賛歌」も、
ヘミングウェイの「誰がために鐘は鳴る」も、

ジョン・ルカレの「寒い国から来たスパイ」も、

戦後の大作映画「第3の男」（オーソン・ウエルズ、
とグレアム・グリーン）も、
全部、ゼーンぶ、キム・フィルビーという恐るべき人物の、
この男を主人公とする、実話の話、真実の話だったのだ。

そして、映画「007（ダブル・オー・セブン）」に出てくる、
ジェームズ・ボンドの上司の
M I 6（エム・アイ・シックス、イギリスの国家情報機関の最高組織）
の
長官である" M（エム）" は、

実在の スチュアート・メンジーズ Stewart Menzies
（1890 - 1968）
MI6 長官であった。

そして、このカーナリス長官が、イギリスのスパイであり、
上記の、英M I 6のメンジーズ長官に、ドイツ軍の動きを、
すべて、逐一、知らせていたのである。

何としたことだろう。これが、真実の現代世界史だ。

だから、ヒトラーのナチス・ドイツは、初めから戦争に負ける運命にあった。

国家の中枢の情報長官を、敵に取られていたら、戦争は勝てない。

ということは、日本の参謀本部（大本営）の軍事行動の決定で、ドイツ軍に送られたものは、すべて、英、米に、知られていたということだ。

そして、映画「第3の男」の真実のモデルである、キム・フィルビーと、同じ、ソビエトに逃れて、生き延びた、他の二重スパイたちのことは、もう、省略する が、

キム・フィルビーの生涯最大の友人、同志だった、ニコラス・エリオット（1916 - 1994）は、最後まで、MI 6の最高幹部として生き延びた。

このニコラス・エリオットの父は、イートン校の校長で、今のエリザベス女王を教育した、ご養育係だ。

私たちのこの、世界の、裏の裏の、上の上の、奥の奥 の最高組織の 人々だ。

それは、まさしく007の 最近作の、スペクター Spectre だ、としか、私には言いようがない。

キム・フィルビーの父親、シンジャン・フィルビーは、インド（大英インド帝国）派遣の高級行政官だが、真実の顔は、まるで、「アラビアのロレンス」さながらの、

アラブ人の原住民の衣装を着た写真があるとおりの、サウジアラビアのサウド家を、あやつったサウド家の顧問だ。

もうひとり、ジュージ・アングルトン というアメリカ人がいて、
この男が、実質の、米国OSS（オウ・エス・エス 対外情報局。

CIAの 全身)

の最高人材だったのだが、

このアングルトンが、OSSから、キム・フィルビーに、訓練、
教育を求めて、

ロンドンのMI 6にやって来た。

このアングルトンも、疑われ続けたが、最後まで、
ワシントンDCのインテリジェンス・コミュニティで、生き延びた。

各国のスパイ組織、は、その上の方が、互いに、つながって連携している。

使い捨てにされて、下級の情報部員や、NOC（エヌ・オウ・シー）、
現地の情報提供者 たちは、これでは、たまったものではない。

どんなに、フィルビーが、20年以上、イギリスの新聞や、
英議会で、激しく疑われて、調査されても、彼らは、
フィルビーを庇（かば）い続け、エリオットの調査の最中に、

フィルビーは、1964年に、バイルートから船で脱出して、
黒海沿岸のオデッサに、逃げおうせて、亡命に成功する

その前年の、1963年に、「ロシアより愛を込めて」の

「007」の作品が、
公開されている。その内容に、私は、
今頃になって驚愕している。

あれはすべて真実の世界政治の先取りだったのだ。

あの映画に出た、ロシア女の女優ダニエラ・ビアンキ の 美しさを、
越える、ボンド・ガールは、今に至るも出てこない。

と、私が、書いたら、真に映画好き、映画通（つう）の人だけが、
私、副島隆彦にひれ伏すだろう。

私は、3年前、自分が、家で盗難に遭って、悲しくて、
エンエンと泣きながらも、私は、ずっと、
この「キム・フォルビー」を読んで、
徹底的に、その内容を調べ上げた。

この世の、巨大な真実とは何か、を。

私、副島隆彦が、ずば抜けた世界政治、世界政治思想の
理解者であり、この日本国では、頂点を突く政治知識人である、と、
分かっている人たちだけは、

私が、今、書いていることの本当の重たさを、分かってくれるだろう。

私、副島隆彦だけが、この、東アジアの 哀れな国では、
世界最高の 政治思想理解を、している。

だから、私に敬意を払う人は、私が、今、書いていることに、
本気になりなさい。

そして、今度、年内には、なんとしてでも、出す「歴史再発見」
という本の
第2章は、「外相（がいしょう）松岡洋右（まつおかようすけ）論」だ。

松岡洋右（まつおかようすけ）は、当時、日本人の頭脳としては、
世界一流にはいる。

この松岡洋右を、もの凄く信頼して、心底、信用して、
WW2の直前まで、5年間、外相にして、

自分の耳、口 のように使ったのは、
昭和天皇（裕仁、ヒロヒト）である。

それと、近衛文麿（このえふみまる）首相である。

近衛文麿は、藤原（ふじわら）摂関家（せつかんけ）の、筆頭である近衛家の当主で、だから、「氏の長者（うじのちようじゃ）」である。

だから、昭和天皇と、近衛文麿と、松岡洋右 の3人が、大きく、まんまと騙（だま）されて、策略に嵌（は）められて、引っ掛かったときに、日本国は戦争に突入させられた。

英、米の 最高頭脳、最高 秘密結社 の人々は、ドイツと、イタリアと、日本を、枢軸国（すうじくこく。The Axis ジ・アクシス）という3国軍事同盟の ワル者、悪人（あくにん）の国に仕立てあげた。

計画通りそして戦争に突入させた。

松岡が、三国同盟（ 三国協商とも言った。トライ・アンタント）作ったのだ。

そのあと、イタリアに行きムッソリーニ会い、感激された。

その足で、ドイツにヒトラーを訪ねて、大歓迎され、そのあと、ただちにソビエトに向かって、スターリンに、それこそ、抱きかかえるように、大事にされた。

松岡は、「アジアは、日本に任せてほしい。アジア一帯のイギリスの植民地は、日本が、解放するから」と、いうことで、
彼ら独裁者たちを、感激させたのだ。

これが、日、独、伊、の次に、ロシア（ソビエト）までを引き込んだ、
「松岡の4国同盟案（戦略）」だ。

これを、やられたら、英、米は、もう、負けである。

ユーラシア大陸を、すべて、取られてしまう。

アメリカを封じ込めて動けなくさせて、イギリスさえ撃滅、
敗北させれば、と、

日、独、伊、ロシアは、自分たちの勝ちだ、と考えた。

パリは、1940年の6月には、もう陥落していた。
“花のパリ”、が、ドイツ軍のブリッツクリグ（電撃作戦）で、
占領されるようでは、ドイツの勝ちだな、

と、昭和天皇以下、日本の指導者たちは、このとき、頭のとっぺんから、
思い込んだ。これが、甘かった。

このわずか、3カ月あとの1940年9月に、
日独伊の3国軍事同盟を
締結（調印）している。

松岡が、ムソリーニ、ヒトラー、スターリンに、続けざまに、
会いに行ったのは、
翌年の1941年4月である。

そして、スターリンと「日ソ中立（ちゅうりつ）条約」
（互いに戦争をしない、不可侵の条約）を4月13日に結んだ。

それから、松岡は、モスクワ駅まで、スターリンに見送られながら、
シベリア鉄道で、ハルピンまで来て、そして、そこから、
飛行機で立川の飛行場（立飛。たちひ。陸軍航空隊の基地）まで帰ってきた。

ところが、その2カ月後。

何と云うことか、独ソ戦（どくそせん）が、突如、始まった。

ドイツ軍が、6月22日に、「バルバロッサ作戦」で、
ポーランド国境から、ソビエト領内に、突然、侵攻したのだ。

スターリンは、何も準備をしていなかった。

この独ソ戦の、突如の、開始に、松岡は、青ざめた。

それで、近衛に合いゆき、そのあと、すぐに宮中に駆け込んで、
陛下に謁見した。

そして、昭和天皇に、松岡は、

「御上（おかみ）。ソビエトを直ちに、攻めましょう。
それしかありません。
アメリカと開戦は、出来ません」

と、必死の奏上（そうじょう）をした。

この時、昭和天皇が、烈火のごとく怒って、

「松岡。何とすることを言うか。お前が、つい2カ月まえに、
ソビエトのスターリンと、中立条約を結んできたばかりではないか」
と。

この時、日本の最高指導者の中に、分裂が生まれた。

近衛とも分裂した。松岡は、

「自分は、絶対に外相を辞めない。私が、何とかしなければいけないのだ」と分かっていた。

だが、もう、御前会議（ごぜんかいぎ）やら、帝国国策遂行要項（ていこくこくさくすいこうようこう）やらで、着々と、対（たい）英米 の戦争の準備を、日本軍がしていた。

日本の軍人や、外務省の中に、アメリカとつながっている、おかしな奇妙な連中がいた。

米内光政（よないみつまさ）海軍大臣、重光葵（しげみつまもる）前外相たちだ。

陸軍と海軍の情報部（特務機関）を握っていた、服部卓四郎（はっとりたくしろう）と河辺虎四郎（かわべとらしろう）たちも、アメリカのスパイだ。

だから、彼らの下にいた者たちが、アメリカの手先どもだ。

戦争前から、そのように育てられていた。

辻政信（つじまさのぶ）や、作戦部長の・・・やら、
戦後は、伊藤忠の会長になった・・・たちだ。

日本が、戦争に負けたはずだ。 政府の中枢に、
敵のスパイたちがいたのだから。

日本の敗戦は、初めから、このように、情報戦とスパイ戦争 によって、
決着が付いていた。

天皇と近衛と松岡の負け、である。 松岡の進言通り、
ロシアを攻めていたら、日本は、
ワル者の国にされることはなかつただろう。

松岡だけが、この時、

「ああ、オレは、嵌（は）められた。大失策だ。何とすることか。
あいつらの策にまんまと、のせられた」と気づいた。

英、米を、大きく、手玉にとって騙（だま）そうという
大きな世界ゲームを、
松岡は仕掛けたのだ。

そして、まんまと騙し返された。

英、米の方が、一枚、上手（うわて）だった。

だが、もう、この時には遅かった。

松岡のその機転 の、天皇への奏上は、却下された。

このあと、重臣（じゅうしん）、閣僚たちから、松岡は、ヒドく嫌われるようになった。天皇に嫌われたのだから。

あのとき、昭和天皇が、あと、一踏み、踏み込んで、

「そうか、松岡。そういうことか。それなら、
私たちも奇策に転じよう 」

と決断するだけの、能力が無かった。

そのことを、昭和天皇は、 、ずっと、その後の、
人生で後悔し、悔やみ続けだだろう。

この時から、昭和天皇は、日本国憲法という、座敷牢（ざしきろう）に、
自ら入って、ひたすら、日本国の安全を祈る、

祭祀体（さいしたい）になった。

「日本は、何があっても、世界を敵に回してはいけない。
危ないことはするな」と、周囲に、

そして、自分の 子、孫たちに、厳しく戒め続けた。

それが、今の天皇夫妻に、そして、次の天皇夫妻に、
そして、その子供に、女帝になるべき人にも、受け継がれている。

こうして、すべては、初めの第1章の キム・フィルビー の
話につながる。

私、副島隆彦 が、書くことを、うーんとうめき声を上げながら、
読む人たちへ。

それだけの能力がある人たちへ。

これが、大きな、現代史の 真実だ。
私の、今度出す、本を、読みなさい。

私が、今、書いたこと以外の、くだらない、日本国内の、
政治評論や、戦争歴史ものを、この73年間
書き続け、載せ続けた、

文藝春秋 や、新潮社 や、中央公論 と、いうのは、
全部、いいように、使われた人たちだ。

来週、12月2日（日）に、開かれる 私たち学問道場の、
定例会に、来れる人は来なさい。

お茶の水の 連合（れんごう）会館です。昼ぐらいからだ。

この、キム・フィルビーの本の、話は、あまり出来ないが、
私が、大事なことを話します。

副島隆彦です。それから、次に、以下の質問のメールが、
私の本の読者から来ていたので、

この質問は、重要なので、答えて起きました。
この問題も、大事だから、よーく、考えなさい。

**（ゆう：以下読者さんからの副島先生宛のメールの質問に
副島先生が答えてます）**

おはようございます。

さて、本題のみ。 副島氏は、山口薫著「 公共貨幣」を
ご存知でしょうか？

小生、You Tube のみで学んでおります。

金融システムについては、 以下の本も買っています。

天野統康 & 安部芳裕。

天野統康氏の You Tube で学んでおります。

参考になれば何よりです。以上。

愛媛、今治市在住 * * * * 拝。

2018年11月5日

愛媛県今治市在住 * * * さまへ

副島隆彦から

メールをいただきました。

貴兄からの質問に、答えます。

私は、この1年間に、貴兄が挙げている 山口薫（やまぐちかおる） 著
「公共貨幣 （パブリック・マネー）」（東洋経済新報社刊、2015
年）を読み、ずっと、考えていました。

私は、山口薫氏が、詳しく説明し、推進している、
政府マネー = 国家マネー = 公共（パブリック）マネー
= 中央銀行の
廃止、そして 政府（財務省）への統合 =
政府だけが通貨（カレンシー、マネー）を発行できる。

必要なだけ、どれだけでも発行できる。

という、この金融制度の根本的な、改革案を、
私、副島隆彦は強く否定します。

貴兄が、推進している、

政府マネー

（通貨、紙幣を発行するのは、政府だけにせよ。

中央銀行の通貨発行権を奪い取り、廃止せよ。

中央銀行を政府に吸収せよ）

理論は、根本的に間違っています。

貴兄が書く、

「 天野統康（あまのとうこう） & 安部芳裕（あべまさひろ） 」
という人物たちは、大間違いの言論人 です。

何でもかんでも、ロスチャイルド財閥が悪で、
米ロックフェラー財閥でさえ、その 手先、子分だというような、
愚か極まりない憎しみ言論を、 ずっと書いています。

私は、ずっと、不愉快なまま、遠くから彼らの言論を見ていました。
真剣に読むほどの本ではありません。

ナポレオンを打ち破った（1815年）あとに、
大英帝国の時代が来た。

それを金融面で、ロスチャイルド財閥が、支配したのは、
真実だ。

だが、その力も、丁度、100年後の、1914年（第1次大戦の勃発。
米では、FRB設立の翌年）から、新興国のアメリカ合衆国が、
世界覇権を奪い取った。

石油の力で、アメリカのロックフェラー財閥が、世界を支配した。

そして、それが、また、100年経って、中国に、
覇権が移りつつある（おそらく、2024年だろう）。

このように、100年ずつ、で、考えれば済むことだ。

山口薫（やまぐち）氏は、真面目な日本人学者で、
名門カリフォルニア大学バークレイ校に留学して、

一所懸命に、ジョージ・アカロフ
（ジャネット・イエレン前FRB議長 の夫） や、
ケネス・アロー（ラリー・サマーズはその甥）ら、
ノーベル経済学賞の受賞者の、ニュー・ケインジアン の

教授たちの授業を、6年ぐらい受講し続け、
そのあと、シカゴ学派 を勉強した人だ。

山口薫は、苦節40年の 経済学者で、真面目な人で、
アメリカ経済学を本当によく勉強した人だ。

だが、 彼の行き着いた果てが、
政府マネーを発行して、不況から脱出するべきだ」理論であり、

「必要なだけ、どれだけでも、政府が、資金を、必要な
部門、産業界 に、マネーを供給するようにできればいい」
という
国家統制的な手法を、賛美している。

そうすれば、不況（デフレ経済）から脱出できる、
という、
マネタリスト
（シカゴ学派の中でも、一番、悪質な連中。
お札を刷って市中に流せば、不況から脱出できる）
そのものだ。

このように 大きな制度変更 （ 中央銀行の廃止、政府への統合）
をせよ、 という。 貴兄もこの考えに従っているようだ。

だが、中央銀行（セントラル・バング）というものの、
歴史的な役割と、存在意義を、

このマネタリストと公共貨幣（パブリック・マネー）論者たちは、
分かっていない。

中央銀行 とは、 イギリスで、発達した、

「通貨を発行する権限を持つ者
(エクスチェカー the exchequer)」

だ。

このエクスチェカー (通貨発行の権限を持つ役人) は、
チャンセラー (the chancellor 大蔵大臣、蔵相) とは、役割が分か
れている。

ファイナンス finance ファイナンス (王の蔵。王さまの資金倉) を預か
るのが、
ファイナンサー (財務大臣、蔵相) で、
これが、チャンセラーだ。

アメリカ合衆国では、 トレジャリー (treasury) を
国庫、国家の蔵として、使う。

エクスチェカーは、金融市場の要求に応じて、
市場の法則、流れに従いながら、マネーの量を調節し、

インフレを起こさないように、物価を安定させる。

この考えが、そのまま、「日銀法 1条」である。

日本銀行の存在理由だ。

中央銀行は、インフレを起こさせないことを任務とする。

国王（政府。と チャンセラー）が、いいように、お札（紙幣）を発行して、
ジャブジャブと市場で勝手に使う、あるいは、

他国との戦争をする資金を作ることを、
禁止し、戒めるために、中央銀行（エクステーカー。通貨発行人）は、
作られた。

だから、中央銀行は、デフレを退治したり、
デフレ（不況）から、回復する仕事は、出来ない。

それは、政府の仕事だ。

そのように、

「デフレから脱出するために、日銀を使うことは出来ません」と、

白川正方 前 日銀総裁も言った

中央銀行は、株式会社であって、民間部門に存在する、
奇妙な銀行だ。

この考えは、人類にとって、大事な考えだ。

16世紀、17世紀、18世紀 の ヨーロッパの
お金（マネー）市場の現実から生まれたものだ。

「（実）社会（＝現実の世界）と
国家（という上部構造。観念、幻想としての 権力機構）の
間（あいだ）を取り持つ」、

両者を媒介する 媒介項（パラメーター、中間項）として、
必然的に存在するものだ。

それ以外の帝国である、

中東のイスラム帝国のカリフやスルタンも、
中国の 皇帝 たちも、

実は、自分自身が、金貸し業 を、
王の蔵（これが、ファイナンス、ファイナンス）を使ってやっていた。

そうしないと財宝を蓄えることが出来ない。

帝国を守るための戦争が出来ない。

日本の 足利幕府 の 実力者、
日野富子（ひのとみこ。将軍足利義政の妻）も、

自分が、応仁の乱で、対立する
両勢力の初期大名たち に、金貸し業をやっていた。

どうも、 日本の 朝廷も金貸し業を、背後 でやっている。
寺社もやっている。

愛宕山（ あたごやま。吉田神道）信仰は、
うらない、まじないで稼いだ、

修験道の道場のように、思われている。

が、本当は、無尽（むじん）という仕組みで、
京都の商人、事業者たちへの 金貸しの融通の 手法だった。

だから、吉田兼俱（よしだかねとも）が、
吉田神道を立てて、伊勢神道の白川家を追い詰めて、全国の神社、
2万社ぐらいを握った。

寺と神社の真実の顔は、占（うらない=近（きん）未来予測、
と呪（まじな）い、災難から逃げる策を教えること、
で、ご飯を食べ続けたのだ。そ

うしないと、人々が進んで、おカネを包んでくれない。

神社も、お寺の、裏で、金貸し業をやっていた、
ということだ。

それだけ、町衆、商人に、資金の需要があったのだ。
戦国大名たちも同じだ。

戦国大名（山賊、海賊系以外は）の真実は、
油売り、土倉（どそう、つちくら）、ロウソク売り、
などの金貸し業から這い上がった者たちだ。

そうしないと、500人とかの自分の手兵、用心棒、武装兵
たちを、自分の周りに、常駐させることは出来ない。

歴史学者や、歴史作家というのは、

こういう泥臭い、人間世界の真実を知らない愚か者の“知識人”
たちだ。 **さん。

私、副島隆彦は、そういうのを、全部、叩（たた）き潰したいのだ。

泥臭い、お金、銭 の話抜きで、
人類の歴史の 真実を語ってはならない。

いいですか。 政府マネー、あるいは、
公共（パブリック）マネーだけにすると、
これは、これこそが、 フィアット・マネー fiat money
不換（ふかん）紙幣になってしまう。

正金（しょうきん）=金（きん、ゴールド）に、交換できない、
ただの紙切れマネー だ。

政府、国家だけが、マネーを発行できる、
という ということにすると、
それは、国家の暴走 を 生む。

国家体制 が、まさしく、
国家資本主義（ステイト・キャピタリズム）か、
国家社会主義（ステイト・ソシアリズム）=だ。

これは、そのまま、 まさしく ファシズム となる。
もう、どうにもならなくなる。

(ここに、あとで、今年、スイス国で、行われた、
この 「政府マネーだけせよ」の 国民投票 (レファレンダム) が、
否決された、記事を、載せます)

＊＊さん。あなたの 脳は、騙されているのだ。
不換紙幣 (フィアット・マネー) の勉強をなさい。

シカゴ学派の シカゴ大学 は、すべて
ロックフェラー1世の資金で、作られた、アメリカで、

一番、頭の良い、生来の保守派の 青年たちが入学し、
そして、卒業すると、ハーヴァード大学 (ニュー・ケインジアン)
の教授たちになってゆく。

シカゴ大学は、アメリカの保守思想の
総本山、権化、牙城の 大学だ。

私、副島隆彦 の アメリカ政治思想 研究の本を読みなさい。

私は、アメリカの政治思想の派閥を、
14の 流派に分けて、分析した、

「 政界覇権国 アメリカを動かす 政治家と 知識人たち」
(講談社+α文庫 、2000年刊) 英語版のタイトルは、 “
Modern American Political Intellectuals ” です。

私、副島隆彦 に、質問をしてきて、

「自分は、馬鹿では無い。本当の 本読
みだ。真実を知りたいのだ」

と、自負するのなら。

いい加減な、生き方は、やめなさい！

私は、怒っている。 ようやく、次の本で、
山口薫という哀れ極まりない、

日本では迫害に遭った、
かわいそうな、3流経済学者で、終わった男の、その必死の叫びを、
私は、受止めることは出来ます。

私が書いた、もう一冊
「迫り来る大暴落 と 戦争刺激経済」（徳間書店、今年4 月刊）の、

第4章だけで、いいから、必ず読みなさい。

そこが、理論編になっています。
そして、私に、また、メールしてきてください。

私は、山口薫 が、アーヴィング・フィッシャー
を最大級に持ち上げている。

フィッシャーは、貨幣数量説=かへいすうりょうせつ=の
生みの親だ。

マネタリストというアメリカ経済学の大きな一派の大家だ。

貨幣の流通速度（りゅうつうそくど）理論を創った学者。

不況時には、政府が、おカネを刷って、
市場に、必要なだけ供給すれば良い。

そうすれば、不況から脱出できる理論を作った人。

マネタリストの権化（ごんげ）そのものだ。

そして、フィッシャーは、1929年の大恐慌で、
自分の 株式投資資産をすべて吹き飛ばした。

このあと、可哀想（かわいそう）にと、
他の教授たちからの、お恵み金で、生活した。

そして、人生に最後に、山口薫が、力説するとおりの、
「シカゴ・プラン」という金融政策を提言した。

人生の最後で、フーヴァー大統領に、

「大統領。おカネを必要なだけ、刷って、市場に供給してください。

そうすれば、大不況=グレート・デプレッション=から、
脱出できます」という、半分正しい。

日本の、蔵相・高橋是清は、これをやって、

昭和恐慌から、昭和8年=1933年=に脱出できた。

正しかった。彼は、本当に、優れていた。

しかし、日本の軍部の反乱、という策略を作られて、
本当は、アメリカに殺された。

高橋は、ロスチャイルド家の薫陶を受けた日本の指導者だ。

フィッシャー は、政府が、
不換紙幣 を発行紙しさえすれば不況から脱出できる、
と 考えた、底なしの愚かさの故に、大間違いだ。

この フィッシャー を継いだのが、
ミルトン・フリードマンだ。

この男が、マネタリストそのもので、
この男が、どれぐらいの極（ごく）悪人か。
本気で、考えて、分かりなさい。

このマネタリストの政策を、日本政府も、
この10年、アメリカに追随して、やり続けた。

それが、「インフレーション・ターゲティング理論」で、
略称、「インタゲ」で、正式には、

「インフレ目標値（もくひょうち）政策」という。

日本では、伊藤隆俊（いとうたかとし）という御用（ごよう）学者が、
安倍政権 の理論的支柱となり、推進者となった。

あの、イエール大学から帰って来た、ボケ爺さんではない。

伊藤隆俊 は、

「合理的期待形成（ごうりてききたいけいせい）仮説の学派」で、ロバート・ルーカスの 子分だ。

コンピュータと共に、勃興した、
「この確立微分方程式の束で、経済の未来予測は出来る。
景気の管理は出来る」と言い続けて、それで、大失敗した。

この「合理的に予測（期待）は、形成できる学派」は、

リーマン・ショック（2008年）のショックと共に、
消滅した。

リーマン・ショックが起きたあと、伊藤は、慌てて、
東大から逃げて、NYのコロンビア大学に、
今も、匿（かくま）われている。

グレン・ハバードという極悪人の学者によって。
竹中平蔵の親分も、こいつだ。

これらの動き、全体を、私、副島隆彦は、
冷酷に追いかけて、自分の本にずっと書いてきた。
彼らは、私がやってきた、このことがコワイだろう。

やはり、ケインズが、天才なのだ。
カール・マルクス と同格の、大天才だ。

人類は、1920年来から、
サープラス（ 余剰生産。作りすぎ。すべてが余る）
の段階に突入した 。

作っても売れない、在庫の山、だけでなく、
生産設備そのものの 過剰、余剰。

そして、 最後には、人間（労働者 ）そのものが、
余ってしまった。

人間の余剰（これもサープラス） が、恒常化した。

人間を、1回の戦争で、400万人とか、
大量に 償却（しょうきやく。デプリシエイション） =
焼却（しょうきやく） 処分に するしかない、

という 時代に、 人類は、突入した。

ケインズは、誰よりも早く、このことを見抜いた。

そして、「雇用、利子、貨幣の一般理論」（1936刊）を書いた。

ケインズが、どれぐらい、天才であるかを、
分からないような人間が、経済学を、言うな。

その前の、 カール・マルクス の
貨幣（マネー、ゲルド）論 、
資本（ダス・カピタル）の諸変態（メタモルフォーシズ）の
研究が凄かった。

それが「資本論」（第一巻、初版、1864年刊）だ。

マルクスの、サープラス・ヴァリュー（surplus value、剰余価値）の研究も、余剰（サープラス）を研究したのだ。

このことの、大天才ぶりを、私たちは、150年後の今、
噛みしめるべきなのだ。あとは、凡人たちだ。

もうひとりのシカゴ学派の大物学者の
フリードリヒ・ハイエクは、

ロックフェラー2世の家計教師として、シ
カゴ大に雇われてきた。

ナチス・ドイツからの亡命者だ。

ハイエクは、マネーとは何かの研究（金融論）の経済学を、
やっていて「あ、これは、危ないなあ」と、
気づいて、経済学そのものをやめた。

そして、ハイエクは、以後、死ぬまでの30年間は、
自生的秩序（じせいてきちつじょ。スポンテイニウス・オーダー）などの、
穏（おだ）やかな、根本保守の、保守思想の研究に向かった。

ハイエクは、これ以上、マネー（貨幣）の研究をすると、危険だ、と気づいたのだ。

ハイエクは、自分の弟子だと、吹聴した、ミルトン・フリードマンを、「君は、私の弟子ではない」と叱っている。

＊＊さん。もうひとつ、教えておきます。

銀行（中央銀行を含む）というものが、本性（ネイチャー）として持つ、信用創造（しんようそうぞう）という能力を、奪い取ってはいけない。

銀行は、おカネを貸し付けるだけで、貨幣を創造してしまう。

さらに預金も集まって、どんどん どれだけでも、マネーを生み出せる。

この信用創造（credit creation クレジット・クリエイション）は、人類にとって大事なものだ。

勃興する 新興の 成長国家は、この信用創造 機能で、ドッカーン、バッカーン、ボコボコと豊かになってゆく。

この30年間の中国を見てご覧なさい。

ケインズの 経済政策としての、
乗数効果（じょうすうこうか。マルチプライヤー・エフェクト）の理論も、
この銀行が本来的に持つ、
信用創造（クレジット・クリエイション）の能力 大きくを利用したものだ。

この「信用創造」 に 対して、それと似ているが、
人為的、人工的、である、

「マネー創造」（マネー・クリエイション money creation）は、絶対
に、やってはいはいけないのだ。

それを、今は、この インタゲ（ インフレ目標値政策）で、
日本も、アメリカも、ヨーロッパもやっている。

シカゴ学派そのままの、ボロ真似の 愚か極まりない、政策だ。

これに、なんと、今のハーヴァード大学の 学者たちが、支持した。そして、推進している。

ハーヴァード大学は、本来、ケインズ学派なのに、
ケインズ思想を裏切って、裏切り者の群れとなった
(その支店のカリフォルニア大学系も)。

それが、前述した、ニューケインジアンたちだ。

今のハーヴァード大学(隣の敷地のMITも)は、
このニュー・ケインジアンのたまり場だ。

本当は、ケインズの裏切り者の集団だ。

彼らは、シカゴ学派に、負けて、屈服した。
今やシカゴ学派の亜種(あしゅ)に、成り果てた。
ポール・クルーグマンも、スティグリッツも、ジ
ョージ・アカロフも、ケネス・アローも、みんな、彼らは、

ケインズ思想の裏切り者たちだ。

却(かえ)って、同じハーヴァード大学内でも、
ケネス・ロゴフ と カーメン。

ラインハート女史のふたりの学者の方が、正直者で、
今は、元気なようだ。

このふたりは、何と、

「もう、アメリカ理論経済学は、死んだのよ。

もう、どうやっても、国家の経済政策（アケノミック・ポリシー）は、

うまくいかない。

私たち、理論経済学者は、全員、敗北した。

だから、あとはもう、政府主導で

統制経済（コントロールド・エコノミー）をやるしかないわね」

と、 彼女は、言い放った。

ついに、アメリカ経済学は、死んだのだ。

だから、これからは、統制経済、計画経済、
あんなに嫌（きら）われた、ロシアや、中国のような、
国家プランニングによる、

国家主導経済になってゆく。

アメリカ政府だって、真実は、今も、
インタゲ = インフレ目標値政策 から、
脱出、離脱、出来ないで、もがき苦しんでいる。

分かりますか？ この 大きな構図を。
私、副島隆彦の金融本を、真剣に、本気で、読む力が無い人が多い。

今は、アメリカも、ヨーロッパも、日本も、
この先進国3兄弟、“だんご3兄弟”は、
ジャブジャブ・マネーと言って、

財務省が発行した国債（ナショナル・ボンド）を、
中央銀行は、どれだけでも、“直接引き受け”（に等しい）して、

いくらでも、おカネ、マネーを政府が、調達している。
それで、足りない分の 国家予算を穴埋めしている。

それは、違法行為であり、
マーストリヒト条約（= EU憲法）違反だ、と、
ヨーロッパ人の指導者たちは、知っている。

自分たちが、違法な、やってはいけないことを、現にやっている、
と知っている。

だから、もう、E C B（ヨーロッパ中央銀行）の
マリオ・ドラギ総裁は、この5年ぐらい、全く、
記者会見に出てこなくなったではないか。

アメリカのパウエル F R B 議長の、あの険しい、
顔つき（この人は、善人だ）と、

日銀黒田（この人も、元は善人だ）の、
苦しそうな顔つきを、見ていれば、分かることだ。

だから、山口薫たちが、言っていることは、
さらに、このマネタリストの、

シカゴ学派とニューケインジアンの相乗り、野合の、

インタゲ（インフレ目標値政策。「インフレ率2%になるまで、中央銀行が、
資金を出し続ける」）を、

推し進めて、尻馬に乗って、
遂には、「えーい。中央銀行を、廃止してしまえ。もう、要らないよ」
という、ファシズムの、理論だ。

ちがうのかですか？ 私、副島隆彦が、書いていることが、
分かる人から上が、真に頭がいい人だ。

私、副島隆彦は、上記のことを、今月初めに発売された、
「トランプ暴落 前夜）」（祥伝社刊）の、最終章（第6章）
に書こうと思った。

だが、もう、へばってしまった。

「もう、無理だ。書かない。疲れ果てた。つぎの本でやります」
と、私が、放り投げた。

「もう、これ以上、難（むずか）しいことを、
一冊の本に書くと、読者が、疲れてしまう。
もう、これぐらいでいいでしょう」と、私は言った。

編集長は困り果てた。だが、私、副島隆彦の脳が、

別の本の、「日本人が知らない 真実の 世界史」
（日本文芸社 刊）を
書いて出した（10月27日刊）ときに、

疲れ果てた。

だから、私の次の金融本で、私は、上記のことを書くでしょう。

副島隆彦拝

=====

以上です！！

副島先生の言論、毎回ながら大変勉強になりますね！

それでかなり書きたいことはあるのですが
上の引用文がかなり長いのもありまして、

なるべく短めにまとめられればと思いますが

やはり金融部分について知ることは大事で

この「中央銀行とは何か」

という部分は知っておいたほうが良いですね。

ちなみにこの中央銀行の役割は2013年くらいに

私もメルマガで相当書いたのですが

もう年数も経過して新しい読者も増えてきたから

再度復習したいと思います。

というのが副島先生が上に書かれてる中央銀行の役割ってのは
早稲田の政治経済とかの学部で教えられる基礎でありまして

私なんかも学生のとくに全く同じ内容を学んでるわけですね。

それで経済で資本主義でなんとか稼ごうと言う人が
中央銀行の役割を知らないというのはかなりまずいと
思うので

理解してほしいです。

再度引用ですが

「中央銀行とは、イギリスで、発達した、「通貨を発行する権限を持つ者（エクステーカー the exchequer）」だ。

このエクステーカー（通貨発行の権限を持つ役人）は、チャンセラー（the chancellor 大蔵大臣、蔵相）とは、役割が分かれている。

ファイナンス finance ファイナンス（王の蔵。王さまの資金倉）を預かるのが、ファイナンサー（財務大臣、蔵相）で、
これが、チャンセラーだ。

アメリカ合衆国では、トレジャリー（treasury）を
国庫、国家の蔵として、使う。

エクステーカーは、金融市場の要求に応じて、
市場の法則、流れに従いながら、マネーの量を調節し、
インフレを起こさないように、物価を安定させる。

この考えが、そのまま、「日銀法 1条」である。
日本銀行の存在理由だ。

中央銀行は、インフレを起こさせないことを任務とする。

国王（政府。と チャンセラー）が、いいように、
お札（紙幣）を発行して、ジャブジャブと市場で勝手に使う、

あるいは、他国との戦争をする資金を作ることを、禁止し、
戒めるために、中央銀行（エクステカー。通貨発行人）は、作られた。

だから、中央銀行は、デフレを退治したり、デフレ（不況）から、回復す
る仕事は、出来ない。 」

以上です。

それでさすが副島先生と私は感じたのですが
すごい簡潔に、中央銀行の役割をまとめてますよね。

それで上の文章読んできつと
ある程度にわかで知識がある人ほど、
「え?? そうなの? 」と驚くはずなんです。

なぜなら

2013年以降、「ジャブジャブマネーをやれば
経済が活性化して、経済が豊かになるのだ！

インフレ率があがって好景気になるのだ！」

ってやってみましたよね？

それで面白いのが

「日本全国の新聞社が右派新聞も左派新聞も共謀して
この嘘をプロパガンダした」

のですよ。

これに私は2013年当時気づきまして、

「これから日本は物価上昇が起こり、そして
不景気のままで実質的なスタグフレーションになる。

そしてそのスタグフレーションは数値で分かってても
発表できないから政府は嘘をつき続ける」

と書いたのだけど、

実はこれ結構読者さんが
「すごいほんとその通りになった」なんて

メールかなり当時いただいたのだけど
(同時に嫌がらせがかなり来ました)

実はこれは中央銀行の役割を理解してれば分かる話なんですね。

ちなみにもう少し詳しく書くと
「インフレ」ってどうやって通常起こるんでしょう？

たぶんこの「インフレが起こる感覚こそが
最近の日本人が
最も分からないこと」
なんです。

なぜか？

経済成長できていないから。

ちなみに私ゆうは台湾におりますが、
台湾の昔の物価はネットでしか知ることができないけど

今は相当安いとはいえ、例えば不動産なんかは
高騰して問題になってるとも聞きます。

それで私なんかはマレーシア韓国は結構昔からいたりするから

「生きた好景気とインフレ」というのを理解してるんだけど

まあ例えば韓国なんかは不景気なんてみんな思ってるけど

それはどうもプロパガンダなのだろう・・・

というのは海外旅行しまくる韓国人たちの姿を見て

薄々金持ちたちは気づいてる。

実際は台湾だったり

韓国なんかはやはり現地にいると分かるけど

景気が日本よりは良いですよ。

人々がよく消費する。

これはマレーシアも一緒。

それで、この「好景気」ってのが起こると、

例えばですが、屋台で売られてる食べ物が

最初150円だとして

それで多くの方は好景気で財布に結構余裕があるから

どんどん150円でその商品買うわけです。

そうなると屋台では実際に見られる光景としては

台湾のチャーハンならば

「チャーハンは今日売り切れました」とか
そんな感じになるわけですね。

そこで屋台主なんかはそこで

「うーん、今は値段としてチャーハンひとつ150円で
売ってるけど別に200円で売っても売れてしまうな」

と考えますし、そこでチャーハンは200円に値上がりするわけです。

これはアジア国にいるとほんとによくあることなので
生活ベースで分かるんです。

だから例えば「以前はあのチャーハンは150円だったのに
今は200円だ」みたいなことが

アジア圏にいると1年、2年単位で起こるわけですね。

これがインフレですね。

それでこのインフレって「好景気が先にあって
人々の実需が最初にあって、
結果として
引き起こされてるもの」

です。

この原因と結果の考え方はとても大事なんだけど

インフレってのは「好景気があってそれが原因となって
起こるもの」

であります。

が、ここで変な奴らが現れた。

そいつらは

「何を言ってるんですか！

お金をジャブジャブに刷れば不景気な経済も
好景気になるのですよ！！」

とか、言い出した。

これがマネタリスト組ですが、

従来の伝統的な経済学者たちは「アホ言うな」
という感じなのだけど

今なんかはこのインフレーターゲティング論者が闊歩してる
状況ですよ。

それで彼らは「ジャブジャブマネーで経済が回復するという嘘」
を意図的に流布しているからですね、

「中央銀行が経済政策もできるという嘘」を言うわけです。

んが、そんなはずない。

これは素朴な疑問として子供くらい純粹なら
沸いてくるだろうものだけど

「もしジャブジャブマネーでお金刷りまくって好景気になるのなら
どの国もジャブジャブマネーをやって好景気にしたがりませんか？」

というものです。

んが・・・実際はそうではない。

どの国も、特に財政が健全な公務員たちが弱い国ほど
こういうジャブジャブマネーを嫌がります。

それは彼らは当然だけどアジアの大学なんかではもう
既に

上の中央銀行の役割って授業でちゃんと教えてるんですね。

副島先生が書かれている中央銀行の役割っていうのは
アジアの英語圏の経済学の学生たちの常識なんです。

別にトンでもなんでもない。

だからジャブジャブマネーにしたら景気が良くなる
ってのは原因と結果を逆転させた

ヤバイ論理ですから、これこそがトンでも論理なんだけど
現状の先進国では、アメリカ、日本、欧州ではこれが
「常識」ということになってしまったんですね。

だから上の
ハーヴァード大学の 学者たちだったり、シカゴ学派ってのは
めちゃくちゃ悪い奴でですね、

もっと言うと実際は公的部門の対抗軸にある民衆は
ジャブジャブマネーすると貧困化するんです。

だからそういう意味で今の日本人が実際に貧困化している
ってのはまあ自然であるわけです。

今はアメリカでも欧州でも日本でもそうだけど
この3先進国地域というのが

まさに「ジャブジャブマネーで貧乏になってる国」でありますね。

ただ一応マネタリストのハーバード大学とか
シカゴ学派の人間ってのは

ある種のこれ宗教ですからね

「ジャブジャブマネーしてさらに貧乏になった」

なんていえるわけないんで、

だから経済回復してるのだ〜と嘘を言ってるわけですね。

ただこれくらいはみんな知っていて当然です。

ちなみに今の中小事業者たちなんかは
もろに実体経済の強さ弱さを把握してる人たちですが

そこで利益なんとか上げてる人たちで日本が景気良いなんて
信じてる人はいないんです。

例えばこの私のメルマガでも
色々な教材を扱うけど 以前はなかったこととして

「入りたいけど払えないから、分割対応させてください」

というお願いがめっちゃくちゃ多かったりするんだけど

これは以前の2010年くらいにはなかった傾向ですね。

それで・・・さらに理解してほしいのが

副島先生が

「伊藤隆俊 は、

「合理的期待形成（ごうりてききたいけいせい）仮説の学派」で、

ロバート・ルーカスの 子分だ。

コンピュータと共に、勃興した、

「この確立微分方程式の束で、経済の未来予測は出来る。
景気の管理は出来る」と言い続けて、それで、大失敗した。」

と書いておりますが、

これがまた大事な話ですね、

私のメルマガでよく

「予測なんてできない」という言葉が出てくるわけですね。

この前なんかは億万長者の野田さんだったりも
「予測なんてできません！」と言ってましたよね??

これが大変大事で、実は「経済は予測可能という思想は
比較的新しいもの」なんですよ。

そして嘘なんですよ、予測できないことは
証明されちゃいました。

例えばだけど「天気予報」なんかがあるのは
あれは「予測できますよ〜という思考体系を洗脳するため」

なんだけども、

みんな気づいていないですね。

天気予報ってのは昔は認められた機関以外は
日本で放送できなかつたんですね。

けどこの合理的期待形成仮説、すなわち

「経済は予測可能です理論」が出てきたときあたりから
おそらく圧力があつたんだろうけど

この天気「予報」が出てきて自由化されちゃってます。

これで人々は「予測とか予知とか」するようになったんだけど
そんなのできるはずないんですよ。

だから結構面白い現象があつて
「予測できる」と思ってる人なんかは

やたらテクニカル分析とかで「予想しよう」と思うわけだけど
この人たちってカモなんです。

証券会社たちも「予測なんてできるわけない」
って知ってるんだけど

ただテクニカル分析のツール使わせて
投資行動をA Iなんかで統計データとして
いかに刈り取るか？っていうことを

やってるんですね。

ただこれが彼らの営業利益になる。顧客の損失は証券会社にとっては
大変重要な収益です。

ちなみに昔は、株式市場なんかでは
予想するとか予測するなんて考え方自体がなくて

「ただ持っておけば長期保有していれば株で儲かる」と
多くの金持ちたちは考えていたんですね。

バフェットが最近明らかにしてるバリュー投資スタイルが
普通だったんですね。

ただここで「個人投資家に予測させよう」と言う人たちが
台頭してきまして、

そこで個人投資家に「絶対不可能と証明されてる予測」を
させることで、

そこで利益を大企業なり証券会社が計上する構造が
本当はできた、んです。

んで、よく私のメルマガでかなり長く扱ってる商品で
例えば野田式なんかを扱ったのも

「予測できない」という前提で取り組んでらっしゃったからですよ。

すなわち「予測できないと知ること」

っていうのは

本当はもっと経済学の言葉使って説明すると

**「ロバートルーカスの合理的期待形成仮説論は
嘘である！！」**

という意味なんですよ。

私はそういうのをはっきり書きますけど
ここで「予測できないという真実」に気づいた人たちが
なんだかんだ金持ちになってるのは

投資業界やネットビジネス業界で一緒です。

ちなみに生来の勘が鋭い人ほど

このロバートルーカスの合理的形成仮説論とか知らなくても

「どうも予測できるなんて嘘だ」と気づくわけで

そういう人たちが結局金持ちになってるのが
本当のところですね。

だから今回副島先生の言論を引用したけど

それは

「予測できないということを知ってほしい」からです。

私は副島先生に学ぶ中で気づいたけど、
それ今につながってるんですよ。

ちなみに中央銀行は結局デフレを解消する能力はなくて
あくまで 好景気で経済が過熱したときに

暴れた馬を「ドードー」とコントロールしようとするのと
一緒にその過熱を抑えるくらいしかできないのだけど

今は中央銀行に経済政策させてなんとか景気が回復する

と先進国中の自称識者たちが考えてるわけですが

これはですね、必ず、失敗しますね。

予測なんてできませんから。

この時点で経済予測しようとしているわけで

これは痛い目見るんです。

ただそれは昔のソ連なんかもそうでした
統制経済なんかに移行して、

そして崩壊していったわけで

今のロシアとして力つけたけど

一度日本なんかもだから統制経済をしばらくやって
どうしようもなくなって

そこで国家社会主義は崩壊して
その次に初めて近代デモクラシーや資本主義が追求される
のだろうなと私は思いますよね。

経済は予測できませんからね、
今の先進国はもう予兆でてるけど長期では追い込まれていきますね。
その部分は、必然性を持って。

それで今そんな中でも生き残って稼いでる人たちは

「予測なんてできない」と

すなわち合理的期待形成仮説だったりとかを端から信じていない人で
そういう人たちだけがなんとか稼いでいるってのが

2018年の現状ですね。

予想力なんか鍛えても意味ないんで
対応力鍛えるのが大事。

私が英語と韓国語話せるのに今中国語また
学んでるのは

人生全般で
対応力あげようとしているわけですね。

それで、なかなか「予測なんてできない」と言われても
現代人ほど予測可能と洗脳されてる人たちもおりませんから、

何度か副島先生の上の文章は読んでみると
良いでしょう。

そうしたらようやくなんとか
稼ぐ部分にもつながっていきますね。

ちなみにこの行まで読んでるあなたは
もはや持ち上げるわけでもなんでもなく、

事実上、大体100人に2人くらいには入ってますね。

私は冷酷に気づいたことがあるんだけど
多くの方がもう上のレベルで長い日本語文章だと

それを読解できないわけです。

それくらい日本語読解力が日本人で低下しているわけでした
そういう意味ではみんな

「予測できるというのが嘘だ」という真理にさえ
たどり着けないんですね。

そういう意味では今ここまで読んでらっしゃるなら
相当な能力なんだろうと私は冷静に考えますので

ぜひ力つけて稼いで、稼いだら
全員に理解してもらうことは現実不可能ですが

能力ある人には事実を教えてあげましょう。

それでは！

追伸・・・ちなみに副島先生が書かれてるように
日本は資本主義ではないですし、
近代デモクラシー国家ではないですし

単なる国家社会主義なんです。
中央銀行廃止論ってのは色々ネット上でも言われていますが

あの論理が広まることで得する人たちがいますね。
それは誰か？

それはやはり公的部門の公務員だったり準公務員だったり
公共事業入札業者だったり
実質の税金を原資として食ってる人たちですね。

日本の公的部門の比率は実際にみなし公務員だったり
を含めてしまうと堂々の世界一で

これはGDPにおける政府債務比率が世界一であるのと
符号します。

この人たちに民衆の牙が向かわないように
巧妙に言論操作されてる、ってのも気づく人は気づきますよね。

中央銀行は各国にありますけど
日本は財政赤字GDP比率で世界一です、堂々の。

すなわちここを思考させない扇動言論として
公的部門を守る盾として
最近流行の？中央銀行廃止論があると分かっちゃいますね。

ただ昔は中央銀行の役割なんかは
ある程度知られていたからこれに騙される人は少数だったけど

最近では日本全体の読書量が減ってて
抽象思考力が低下しており

ころっと騙される人が増えてきたってことですね。

だから見抜く力は大事ですし

やはり一定程度の基礎知識は全てにおいて大事ですね！

それでは！

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

【ネットビジネス系の新案件】

借金300万円から復活した

【元お笑い芸人大田さんが
298000円のソフト⇒無料でプレゼント！】

⇒ <http://www.fxgod.net/a/groups/1427489/14/>

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆